



【ふみの庭】

手紙の館の中央にある中庭です。思いを巡らせて手紙を書いたり、飲み物を飲みながらゆっくりとくつろいでいただけます。また屋外の展示や演奏会なども行います。



【企画展示室】

愛媛県西予市の「かまぼこ板の絵」と「日本一短い手紙」が出逢って作られたコラボ作品が展示されています。定期的に、様々な企画展示も行われます。



【古城展望室】

上空から撮影した、普段見ることのできない四季折々の丸岡城の映像をご覧になれます。回廊から丸岡城や東の秀麗な山並みを展望できます。



スマホでスキャンすると動画を見ることができます。



QRコードから下記のアプリをダウンロードして下さい。
アプリを起動すると画面が撮影モードになりますので、写真が入るようにかざしてください。
※接写して、写真のピントを合わせるとうまく認識されます。

検索 COCOAR2



スタンプ



- 交通** 車……………北陸自動車道 丸岡 IC から 5 分
電車・バス……………[金沢長野方面から] JR 芦原温泉駅～京福バス
「芦原丸岡永平寺線」で約 20 分 「丸岡城」バス停下車
[京都大阪名古屋方面から] JR 福井駅～京福バス
「丸岡線」で約 40 分 「丸岡城」バス停下車
- 料金** 越前丸岡城＋歴史民俗資料館＋日本一短い手紙の館
3 カ所共通入場券 大人(高校生以上) 450 円 小人(小中学生) 150 円

一筆啓上 日本一短い手紙の館

〒910-0231 福井県坂井市丸岡町霞町 3-10-1
tel.0776-67-5100 fax.0776-67-4747
URL <http://www.tegami-museum.jp/>

ご利用時間：午前 9 時～午後 5 時（最終入館は午後 4 時 30 分）
休館日：年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）展示替え等のため特別休館あり



www.maruoka-kanko.org

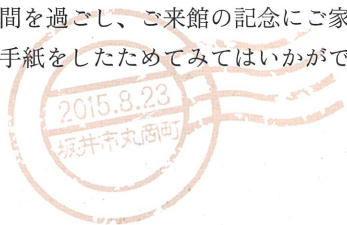
一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥せ

徳川家康の功臣で「鬼作左」と呼ばれた本多作左衛門重次が陣中から妻へ宛てたこの手紙には、家を守り、家族を愛し、忠義を尽くす思いが短い文の中に簡潔に込められています。文中に出てくる「お仙」が、初代丸岡藩主本多成重であったことから、この手紙をモチーフに「一筆啓上賞」が誕生しました。

一筆啓上賞は、活字やメールでは伝わらない本物の手紙文化の復権を目指し、全国初の手紙のコンクールとして平成5年にスタート、第1回「日本一短い『母』への手紙」には、海外18ヶ国を含む世界各地から32,236通の応募が寄せられました。

そして、平成27年8月23日、「一筆啓上 日本一短い手紙の館」が開館しました。これまでに一筆啓上賞に寄せられた130万通を超える手紙をただ展示するのではなく、心に響かせ、心に染み入るよう趣向を凝らした方法で紹介する、手紙文化の発信地です。

館内でゆっくり流れる時間を過ごし、ご来館の記念にご家族や友人など大切な方へお手紙をしたためてみてはいかがでしょうか。



今から440余年前の天正3(1575)年、織田信長は越前の一方向を平定するため大軍を派遣し、当時丸岡の東北4kmの山中にあった豊原寺を攻略し寺坊を悉く焼き払いました。信長はこの恩賞として柴田勝家に越前之国を与え、北ノ庄(今の福井市)に築城を命じます。

勝家は甥の勝豊を豊原に派遣し豊原城を構えましたが、翌天正4(1576)年豊原から丸岡に移り城を築きました。これが現在の丸岡城です。

勝豊以後、安井家清、青山修理亮、同忠元、今村盛次、本多成重以下4代、有馬清純以下8代の居城を経て明治維新となりました。大正中期より昭和の初期にわたり濠は埋められ、現在は本丸と天守と僅かに石垣を残し城域は公園となっています。昔の城郭は五角形の広い濠を有し外郭に侍屋敷を配置し、さらに河川を利用し外濠を設け寺院民家を包容し城下町を形成していました。

丸岡城は現存する天守の中でも古い建築様式で、外観は上層望楼を形成して通し柱がなく、一層は二階三階を支える支台をなし、屋根は二重で内部は三階となっています。このような古調に富んだ望楼式天守は後の時代の層塔式天守と比較すると、いかに城郭建築の初期のものであるかがうかがえます。また、屋根が全部石瓦で葺かれているのが全国にも稀な特徴となっています。

昭和9年、国宝に指定されましたが、昭和23年福井大震災により倒壊しました。昭和25年重要文化財の指定を受け、昭和30年に修復再建されました。

【越前丸岡城図】
正保元年(1644年)作製
国立公文書館所蔵



❖ 四季折々の丸岡城



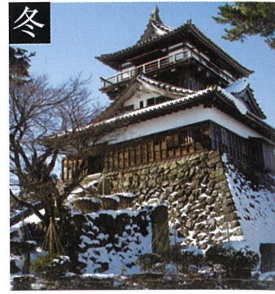
春



夏



秋



冬



本多家菩提所【本光院】



有馬家菩提所【高岳寺】



「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬徳川家康譜代第一の功臣で鬼作左と呼ぶ本多作左衛門重次が陣中から妻に宛てた手紙は、手紙のお手本として有名です。のお仙とは嫡子仙千代で、後の福井城主忠直に仕え、幾度の戦いに武勲を立てた丸岡藩主本多成重のことです。」「一筆啓」のモチーフにもなったこの書簡碑は天守の東北端に建てられています。

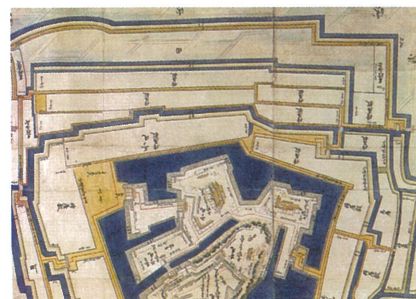
データでみる丸岡城



今から440余年前の天正3(1575)年、織田信長は越前の一方向一揆を平定するため大軍を派遣し、当時丸岡の東北4kmの山中にあった豊原寺を攻略し寺坊

丸岡城は現存する天守の中でも古い建築様式で、外観は上層望楼を形成して通し柱がなく、一層は二階三階を支える支台をなし、屋根は二重で内部は三階となっています。このような古調に富んだ望楼式天守は後の時代の層塔式天守と比較すると、いかに城郭建築の初期のものであるかがうかがえます。また、屋根が全部石瓦で葺かれているのが全国にも稀な特徴となっています。

昭和9年、国宝に指定されましたが、昭和23年福井大震災により倒壊しました。昭和25年重要文化財の指定を受け、昭和30年に修復再建され



した。信長はこの恩賞として柴田勝家に北ノ庄(今の福井市)に築城を命じます。豊原に派遣し豊原城を構えましたが、年豊原から丸岡に移り城を築きました。このです。本多家清、青山修理亮、同忠元、今村盛次、有馬清純以下8代の居城を経て明治維新、大正中期より昭和の初期にわたり藩は埋

❖ 四季折々の丸岡城



春



夏



秋



冬



本多家菩提所 [本光院]



有馬家菩提所 [高岳寺]



「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥せ」
徳川家康譜代第一の功臣で鬼作左と呼ばれた
本多作左衛門重次が陣中から妻に宛てたこの
手紙は、手紙のお手本として有名です。文中
のお仙とは嫡子仙千代で、後の福井城主松平
忠直に仕え、幾度の戦いに武勲を立てた初代
丸岡藩主本多成重のことです。「一筆啓上賞」
のモチーフにもなったこの書簡碑は天守石垣
の東北端に建てられています。

データでみる丸岡城

- 天守の高さ…… 12.6m
- 石垣の高さ…… 6.0m
- 鯨の高さ…… 1.66m
- 城山の高さ…… 17.0m
- 石瓦の重さ…… 約 20 ～ 50kg (1 枚)
- 石瓦の枚数…… 約 6,000 枚・重さ約 120t

スタンプ

❖ 丸岡城 歴代城主

柴田 勝豊 (しばかつとよ)	天正 4 年～天正 10 年 (1576 ～1582)
安井 左近家清 (やすいさこんいえきよ)	天正 10 年～天正 11 年 (1582 ～1583)
青山 修理亮 (あおやましゅうりょう)	天正 11 年～天正 15 年 (1583 ～1587)
青山 忠元 (あおやまただもと)	天正 15 年～慶長 5 年 (1587 ～1600)
今村 盛次 (いまむらもりつぐ)	慶長 5 年～慶長 17 年 (1600 ～1612)
本多 成重 (ほんだなりしげ)	慶長 17 年～正保 4 年 (1612 ～1647)
本多 重能 (ほんだしげよし)	正保 4 年～慶安 2 年 (1647 ～1649)
本多 重昭 (ほんだしげあき)	慶安 2 年～延宝 4 年 (1649 ～1676)
本多 重益 (ほんだしげます)	延宝 4 年～元禄 8 年 (1676 ～1695)
有馬 清純 (ありまさよすみ)	元禄 8 年～元禄 15 年 (1695 ～1702)
有馬 一準 (ありまかずのり)	元禄 15 年～享保 18 年 (1702 ～1733)
有馬 孝純 (ありまたかすみ)	享保 18 年～寛延 3 年 (1733 ～1750)
有馬 允純 (ありまますみ)	寛延 3 年～安永 元年 (1750 ～1772)
有馬 譽純 (ありまなずみ)	安永 元年～天保 元年 (1772 ～1830)
有馬 徳純 (ありまのりすみ)	天保 元年～天保 8 年 (1830 ～1837)
有馬 温純 (ありまはるすみ)	天保 8 年～安政 2 年 (1837 ～1855)
有馬 道純 (ありまみちずみ)	安政 2 年～明治 2 年 (1855 ～1869)

越前丸岡城

〒 910-0231 福井県坂井市丸岡町霞町 1-59

tel.0776-66-0303 fax.0776-66-0678

URL <http://www.maruoka-kanko.org>

ご利用時間:午前 8 時 30 分～午後 5 時 (最終入場は午後 4 時 30 分)

T e g a m i - n o - Y a k a t a

一筆啓上 日本一短い手紙の館



<http://www.tegami-museum.jp>